中野区教育委員会会議録

令和６年第８回臨時会

令和６年７月２９日

中野区教育委員会

令和６年第８回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和６年７月２９日（月）

開会　午後　　６時３５分

閉会　午後　　７時０６分

○場所

中野区役所７階　教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長　　田代　雅規

教育委員会委員　　平本　紋子

教育委員会委員　　岡本　淳之

教育委員会委員　　村杉　寛子

○欠席委員

教育委員会委員　　伊藤　亜矢子

○出席職員

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長　　渡邊　健治

指導室長　　井元　章二

○書記

教育委員会係長　　藤井　玉枝

教育委員会係　　伊藤　芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長　　田代　雅規

教育委員会委員　　村杉　寛子

○傍聴者数

０人

○議事日程

1　協議事項

（1）令和７年度使用教科用図書の採択について（指導室）

○議事経過

午後６時 35 分開会

田代教育長

それでは、定足数に達しましたので、教育委員会第８回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、村杉委員にお願いいたします。

本日の議事は、議事日程のとおりです。

ここでお諮りをいたします。本日の協議事項「令和７年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第１項の規定により、非公開の取扱いとなっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第７項のただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

（以下、非公開）

（令和６年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開）

田代教育長

それでは、日程に入ります。

協議に入る前に、前回の臨時会から本日までに教育委員会及び教育委員宛てに要望書などが届いておりましたら、ご報告お願いいたします。

指導室長

本日までに要望書等は届いておりません。

＜協議事項＞

田代教育長

それでは、前回に引き続き、「令和７年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。

協議の進行につきましては、前回と同様の方法により行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、教科種目ごとの協議に入りますが、本日は伊藤委員が欠席となりますので、各委員からご意見を伺い、採択候補の決定は次回以降の会議で行うこととしたいと思います

が、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

それでは、そのように進めたいと思います。

それでは、最初に書写についての協議を行います。

まず、平本委員、お願いいたします。

平本委員

書写については、書写と日常生活や他教科へのつながりが工夫されているか。またデジタル化が進んでいく社会においても、文字を書くということの面白さや、日本の文字の美しさなどを楽しめる内容であるかという観点で見させていただきました。

私はＡ者とＣ者に注目いたしました。

Ａ者につきましては、表紙の裏を拝見しますと、「文字を『書く』って、なんだろう」という問いかけで始まりまして、イラストを使って、文字を書くよさや価値を考えさせる工夫がある点がよいと思いました。また、行書については、中心線がありまして、習字に生かしやすいと思いましたし、左側のお手本を見て書いてみた上で、右下に「書写のかぎ」ということで、ポイントを示して練習ができます。また毛筆で学んだことを硬筆に生かすという流れも、わかりやすくなっていると思いました。さらに、学んだことを生活に広げる工夫としては、コラムなどに盛り込まれておりまして、「書写活用ブック」というのも実生活で活用できる内容になっていると思いました。

次に、Ｃ者については、全体として左利きの生徒へきめ細かい配慮があると感じました。また冒頭で、様々な筆記用具を紹介しておりますので、その後の学習につなげる流れもスムーズであるという印象です。行書については、初めに筆使いを確かめるような導入がありまして、お手本には中心線もあり、試し書きをして、次に「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」という流れで、他の発行者と比較すると、情報量は多いですが、丁寧であるという点がよいかと思いました。

またコラムの題材については、文字の変遷や日本建築と書、書くことの変遷など、日常生活とのつながりも意識しながら、文字や書くことの楽しさを伝える内容になっていると思いました。また身の回りで見かける多様な表現による文字について考える単元なども、学んだことが社会生活にどのように生かされているかを考える上で、興味深い内容になっていると思いましたので、生徒たちにとって、日常生活や他教科へのつながりも意識しなが

ら、文字を書くことを楽しんでいけるという点で、私はＣ者がよいのではないかと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

結論から申し上げますと、左利きの生徒にも配慮がある点、またお手本や中心点など、中学生の学習の助けとなる情報がより豊富な点、それと楷書と行書を比べながら練習できる点などから、私はＣ者がよいと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

最近はデジタル化され、タブレット端末の使用が多くなっていますが、生徒たちが文字を書くことに親しみを持ち、わかりやすくレイアウトされ、説明されているかについて見させていただきました。それぞれ各者わかりやすい工夫がされていましたが、Ａ者、Ｃ者について述べさせていただきます。

Ａ者は「文字を『書く』って、なんだろう」と、書写の意味を考える導入に始まり、色分けがされたわかりやすい目次でした。各単元に「書写のかぎ」があり、学習のポイントの記載が学びやすいと思いました。

Ｃ者は、４者の中で一番教科書の幅が広く、写真が鮮明で、見開き２ページで大きくわかりやすい表示がされていました。左利きの用具の置き方の記載もある点は、丁寧だと思います。各教材の「考えよう」が問いかけになっている点は、さらに深い学び、主体的・対話的な学びにつながるものだと思います。また「振り返ろう」でも、復習ができ、定着していくのではないかと思います。

デジタルコンテンツに、それぞれの字の硬筆の動画がある点は、さらに学びやすいと思いました。また巻末に、包み紙の書き方も大きく明確に書かれてあり、社会に出た際に実践的でよりわかりやすいと思いました。文字の基本形や筆使いなど、基礎の技能が大きくわかりやすくしっかり学べるという点で、私もＣ者がいいのではないかと思いました。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

ＩＣＴの活用、二次元コードの利用については、４者ともにとても丁寧にわかりやすく作られていると思いました。ユニバーサルデザインやＳＤＧｓについても４者ともに取り入れていて、甲乙つけがたいと思いました。

Ｂ者は、硬筆の練習欄がとても充実していて、説明が簡潔で見やすいと思いました。

Ｄ者については、考えたり話し合ったりする教材があって、学習の進め方がとてもよいと思いました。

ただ、総合的に悩んだのですけれども、Ａ者とＣ者がとてもよいと思いました。

Ａ者については、Ｃ者も同様ですけれども、お手本の文字にポイントが書いてあるのがとてもわかりやすいと思いました。Ａ者は右ページが説明で、左ページに手本が掲載されているのは、とても使用しやすい教科書だと思いました。Ａ者は、書き初めのページがわかりやすく、活用ガイドブックも使いやすいと思いました。

最後に迷ったＣ者なのですけれども、見開きで手本も見ることができて、毛筆の指導はとても充実していると思いました。学習の手順も段階的に示してあって、生徒が学習しやすいと思いました。コラムで書写の歴史を学ぶことができて、写真や資料なども充実していて、実生活の中で、硬筆や毛筆、学んだことが活用できる内容になっていると思いました。

総合的に判断して、私はＣ者がよいと思いました。

他に、各委員から発言はございませんか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見を伺い、意見を集約することとしたいと思います。

それでは、これから協議を行う理科についてでございますが、教育長就任前に大日本図書株式会社の数学の教科書の著作、編集に私が関わっておりましたため、教科書採択の公平性の観点から、大日本図書株式会社が発行する教科書がある種目の協議に関わることは適切でないと判断いたしました。

つきましては、理科については、協議する場から退席したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

それでは、私は、ここで退席いたします。

退室後の教育委員会の会議の進行は、教育長職務代理者の平本委員が引き続き会議を主宰いたします。

それでは、平本委員に会議の進行を引き継ぎいたします。よろしくお願いいたします。

（教育長　退室）

平本教育長職務代理者

教育長職務代理者の平本です。

ただいま、教育長が退室されましたので、職務代理者として、会議の進行を行います。

それでは、理科について協議を行います。

まず、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

私は特にＡ者、Ｃ者、Ｅ者の教科書に注目をいたしました。

Ａ者の教科書は、単元の始まりのこれまでに学んだことの振り返りと、この単元で学ぶことがすっきり整理されていてよいと思いました。また紙面も、情報量は多いのですが、ごちゃごちゃしておらず、大変すっきりと読みやすいと感じました。

Ｃ者については、「どうするレポート」として、教科書の最初にレポートの書き方を解説してあるところが、特徴があってよいなと思いました。また探究を気づきと振り返りの反復と位置づけてあるのもよいと思いました。一度やって、それで終わりではない。探究というのは、続いていく学びであるということがよくわかりました。

Ｅ者の教科書は、こちらも探究について、探究の学びがサークルで示されてあるのが、とてもよいと思いました。一度ゴールが見えたら、また次の探究が始まるということはサークルでよくわかりました。まさにＥ者の教科書にあるように、探究の過程、プロセスですね。こちらがはっきりとわかりました。また巻末付録の探究シートも、若い先生にとっては有用ではないかと思った次第です。

全ての教科書には言及しませんでしたが、各者ともに大変工夫されていて、基礎・基本を十分に学べる内容であると思いました。特に、私はその中でも、Ａ者とＥ者がよいと思いました。

以上です。

平本教育長職務代理者

次に、村杉委員からご意見をお願いいたします。

村杉委員

実験や観察を通じて、科学的な思考を深めるための内容が充実していること、生徒の興味を引き、科学に対する関心が高まるような工夫がされているかなどについて見させていただきました。各者ともに、理科の見方・考え方について、それぞれ工夫がされていましたが、その中でもＡ者、Ｃ者について注目させていただきました。

Ｃ者は、冒頭、目次に続き、なぜ理科を学ぶのか、また探究の進め方がわかりやすく記載されていました。「どうするレポート」として、１ページにわたり、レポートの記載の仕方が詳しく示されている点も参考になると思います。単元末の学習のまとめも２ページにわたり用語を覚え、基本問題とコンパクトにまとまっていました。デジタル教材も、全てのページに二次元コードがある点は充実していて、生徒たちの関心が高まり、学習が深まるのではないかと思いました。

またＡ者は、教科書の使い方も詳しく示され、また「考察はここをおさえよう」でも、議論の仕方などについて詳しい記載がありました。理科の見方、考え方がキャラクターを用いての問いかけにより、学びやすくなっていると思いました。話し合いの仕方や発表の仕方なども、巻頭に丁寧に解説されていました。また学校側からの考えたり、話し合ったりする活動が、自分の言葉で表現する場面が多く設定されているという意見も踏まえ、使用しやすいのではないかと思いました。

写真、グラフ、図が大きくわかりやすく、ページの質感もいいと思いました。レポートのまとめ方が文字も大きく、１ページに詳しく吹き出しがついて記載されている点も、学びやすいと思いました。単元末の学習の内容の整理も丁寧にまとめられ、確かめ問題から活用問題と学びが深まるのではないかと思いました。生徒たちが実際に手を動かし、実験などを通して科学的な手法を学べるという点においても、先生方が指導しやすく、生徒たちが学びやすいという点においても、Ａ者がよろしいのではないかと思いました。

以上です。

平本教育長職務代理者

では、最後に、私の意見を申し上げます。

私は、理科や科学を学ぶ有用性と楽しさを伝えられるような内容になっているか、また科学的に探究していく学びを進めやすいかという観点で見させていただきました。各者ともに探究的な学びの流れについては工夫がされておりまして、わかりやすいものになっておりましたので、大変迷ったのですけれども、私はＡ者とＣ者に注目いたしました。

Ｃ者は「理路整然－智に働けば役に立つ」という目を引くキャッチフレーズを多用しておりまして、学び方、読み取り方、文章でのまとめ方にかなりフォーカスをしているという印象です。この教科書を使ってしっかりとしたレポートをまとめていくような力を身につけることができる内容になっていると感じました。

また左側の帯の部分で、学習の流れをビジュアル的にわかりやすく示している点はよいと思いました。デジタルコンテンツも豊富でして、多言語にも対応しており、配慮が行き届いていると感じました。また２年生の教科書では、帰納法と演繹法について、しっかりとした解説をした上で、レポートをまとめる際にも、筋道の通った状態になることを生徒に意識させて取り組ませるという点は、すぐれていると思いました。

次にＡ者についてなのですけれども、表紙の写真と問いかけの文章が目を引くつくりになっておりまして、生徒たちの想像力をかき立てられるデザイン上の工夫がある教科書であると感じました。また実験道具や実験方法の写真、イラスト、説明が視覚的に見やすくてわかりやすいと思いました。安全指導についても、赤字で注意喚起するなど、視覚的な工夫が目立っていたと思います。

デジタルコンテンツについても、ワークシート、図鑑、観察手順など充実しておりました。また問題発見、仮説、実験、分析、解釈、まとめ、活用までの流れについても、色使いのところで工夫して強調するという部分がわかりやすかったと思います。さらに３年生の最後で、「持続可能な社会のために」という特集があるのは、学びを深める工夫という観点でもよいのではないかと思いました。

結論としましては、Ａ者とＣ者、どちらのよさもあったのですけれども、Ｃ者のほうがやや難しいかなというところもありまして、しっかりレポートを書く力という点ではよいと思ったのですけれども、最終的にはバランスがとれているＡ者が、私はよいのではないかと思いました。

ほかに、各委員から発言はございませんか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見を伺いまして、意見を集約することといたします。

それでは、理科の協議が終了しましたので、教育長は入室してください。

（教育長　入室）

平本教育長職務代理者

教育長が着席しましたので、会議の進行を教育長へ引き継ぎいたします。

田代教育長

それでは、引き続き、私が会議の進行を行います。

次に、道徳についての協議を行います。

まず、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

生徒たちが自分に責任を持ち、社会的に責任を持ち、いろいろな側面から思考ができ、友人とうまく関われるよう、人間としての生き方を考えるのに当たり、教科書を通じて、道徳的な問題やテーマが深く理解できるような工夫がされているかなどの視点から見させていただきました。各者ともそれぞれ使いやすいと思いましたが、その中でＡ者とＣ者について注目させていただきました。

Ａ者は、冒頭の文字も見やすく、１年間で学ぶことが項目別に整理され、わかりやすいと思いました。教科書の使い方も丁寧に書かれていました。いじめ問題の単元の間に、いじめの構造の記載があり、いじめを周りで見ている傍観者の記載が丁寧に書かれ、生徒たちも学びやすいのではないかと思いました。命を考える単元も、１年生から３年生まで充実していて、命について深く考えさせるような内容でした。また、避難所で私たちができることの記載もあり、役立つのではないかと思いました。

Ｃ者は、目次もわかりやすく、いじめや情報モラルについても、ユニットのテーマとして、目次の下に記載がありました。いじめ問題に向き合うことを意図した単元を多く扱っていることも、様々な面から学びやすいのではないかと思いました。単元の後半に、「考えよう」で考えを深め、「問いを立てよう」や「演じて考えよう」などで、対話的な学びにつながり、とてもよいのではないかと思いました。

デジタルコンテンツも、教材の朗読がされていることや「インターネットの中の社会で」を見てみましたが、非対面性、公開性、拡散性、記録性、信憑性、流出性など、詳しい資料となっていました。生徒たちが道徳的な問題やテーマも深く理解できるよう、わかりやすい表現や事例が掲載され、考えさせるという点において、私はＣ者がよいのではないかと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、平本委員、お願いいたします。

平本委員

私は道徳については、生徒が自分と向き合い、多面的な視点で考えを深められるような内容になっているか。またいじめなどの人権的な問題に関して、適切な内容になっているかという観点で見させていただきました。幾つかの者がいじめについての題材をまとめて掲載しておりまして、それがとてもわかりやすいなと思いましたが、私が特に注目したのは、Ａ者とＣ者でございます。

Ａ者については、気づく、考える、深める、広げるという流れが示されており、１年間で学ぶことの見通しが持ちやすい教科書になっていると思います。またデジタルコンテンツでは、スライドに加えて朗読もあり、先生方が活用しやすい工夫がなされているように思います。

そしていじめについては、絵を用いた題材が多く、主体的・対話的な学びを進める工夫がなされているものと理解はしたのですけれども、一方で文章がなく、いじめに当たると思うものをイラストから選ぶというような題材の場合には、授業の進め方にやや高度な技術を求められるようにも感じられました。絵をどのように捉えて評価するかについても、多様な考え方があるかと思いますし、それを使い方によってはうまく学びを深められるのだろうとは思うのですけれども、本来の狙いや主題から意図せずに離れていってしまう可能性もあるのかなという点は、少し懸念された部分でございます。

次にＣ者については、全学年の表紙に「きみがいちばんひかるとき」という印象に残るメッセージがありまして、導入の「道徳の学習を始めよう」では、答えは一つではない。自分と向き合い、他者と向き合う。学びをつなげるという三つのポイントが示されており、自分と向き合い、他者の意見にも耳を傾けて、考えを深めていくという流れがわかりやすく示されている教科書であると思いました。

またいじめについての題材もまとまっており、わかりやすくなっていたと思います。いじめに関する題材自体の取扱いが多く、コラムと関連づけたユニットも用いることで、多面的・多角的に向き合うような工夫がなされている点がすぐれていると思いました。特にいじめる人、いじめられる人、それを見てはやし立てる人、傍観している人という、いじめの関係性と構造についても踏み込んで、しっかりと取り扱っている点はすぐれていると思いましたし、この点に関するデジタル教材も拝見させていただいたのですけれども、生徒たちにとって、視覚的にわかりやすく図示されていたと思います。

また２年生の教材では、子どもたちにとって身近な「いじり」という行為に関する題材を通して、友情を育むために大切なことや、いじりがいじめの始まりになるということを生

徒たちが話し合って考えていくという工夫がなされておりましたので、主体的・対話的な学びも進めやすいと感じました。さらにマイノリティの問題は、みんなの問題であることということも題材に取り扱っておりまして、ジェンダーやＬＧＢＴＱ、病気や障害、多様なルーツなどについても、しっかり考えさせている内容になっていると思いましたので、私は総合的に見てＣ者がよいのではないかと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、岡本委員からご意見をお願いいたします。

岡本委員

私はモヤモヤできる教材かどうか。自分の考えが深まる問いが用意されているか。問いが押しつけがましくないか。そして対話的な活動につながりやすいかという観点から拝見しました。Ａ者、Ｃ者、Ｆ者について意見を述べます。

Ａ者の教科書は、最初の教材の後に、問いを踏まえた学習の流れが解説してあり、先生にとっても授業がしやすいのではと考えました。教材の後の「ＰＬＵＳ」のコーナーでは、読み物も充実していて、そちらも子どもが自然と興味を持って読めるのではと思いました。これまで委員が言及されていたいじめの教材で、「いじめに当たるのはどれだろう」ですが、私はちょっと刺激的に過ぎるのかなという気がいたしました。また傍観者の問題も、ずっといじめについては指摘されてきているのですが、傍観者となってしまうことについて、その子の問題としてしまうことは避けたいと、私は思いました。

Ｃ者の教科書は、道徳で大切にしたいこととして、「自分に問う」「友達と問い合う」「生き方を問う」と整理されているところ、こちら、私も中学生にとっては大変わかりやすくてよいと思いました。教材も適切なものがバランスよく取り扱われていると感じました。また教材の後の問いも、「見方を変えて」という発展する問いがあるのはとてもよいと思いました。

Ｆ者の教科書については、こちらも適切な教材が取り上げられていると感じましたし、教材の後の「マイ・プラス」は、考えたい問いが載っていると感じました。

結論としましては、中野の中学生に私が学んでほしいと感じた教材が多く載っていて、そして向き合ってほしい問いが載っている教科書として、Ｃ者が最もよいと思いました。またＡ者もよいと思いました。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

全部で７者の教科書がありました。各者ともにＩＣＴの活用に関しては、二次元コードを利用して、動画解説や朗読が流れて、とても使いやすく工夫されていました。またユニバーサルデザインやＳＤＧｓを意識したページもあって、工夫されていました。主体的・対話的で深い学びや編集上の工夫について、それぞれ意見を述べます。

Ｂ者は、話し合い活動を進めやすいページが多く、いじめや命を考える教材が充実していると思いました。発問がまとまっているのも、とても使いやすいと思いました。

Ｄ者は、流行を取り入れた内容もあり、生徒が取り組みやすいと思いました。道徳ノートが附属してあり、ワークシートとして活用できるのも工夫されている方法だと思いました。また最初に主人公の写真やイラストがあるのも、題材をイメージしやすく、とてもよいと感じました。

Ｅ者については、「やってみよう」で学習の進め方が示してあり、主体的な活動がしやすいと感じました。「考えよう」のコーナーで、生徒に考えさせる課題が示されていて、「ブラック・ジャック」の題材はとても面白いと思いました。

Ｆ者は、羽生結弦さんや大谷翔平さんなど、スポーツ選手の題材や漫画の教材もあり、生徒の興味や関心を高められる題材が多いと思いました。

Ｇ者は、独特のウェルビーイングカードがあって、カードをきっかけに話しやすくする工夫があり、自主的に考えながら学習できると思いました。

それぞれいろいろ工夫されていたのですけれども、私は最後悩んだのですが、Ａ者とＣ者がとてもよいと思いました。

Ａ者は、内容もわかりやすい題材が多く、３年生の教科書では、中学生でも知っているＨＩＫＡＫＩＮさんや漫画なども取り入れていて、教科書の構成もよく、自分の意見を発言しやすいと思いました。また学習の流れの説明がわかりやすく、「考えよう」「見つめよう」の課題で、自分の考えを整理できると思いました。「いじめのない世界へ」「命を考える」について３項目取り上げていて、内容もとてもよいと思いました。

またＣ者は、グループ活動の進め方などが書いてあり、主体的な学習が進めやすいと思いました。各題材にある「見方を変えて」や「つなげよう」で、いろいろな考えが引き出せると思いました。また「チャレンジ　問いを立てよう」など、話し合い活動をしやすく、人権意識を高められる教材が多いと感じました。イラストが教材に多く使われていて、視覚

的にも話の内容が伝わりやすく、「道徳道案内」では、１年間の学びを確認できる仕組みになっていました。

Ａ者とＣ者で悩んだのですけれども、総合的に考えて、私はＣ者が一番いいと感じました。

他に、各委員から発言はございませんか。よろしいですか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見を伺い、意見を集約することといたします。

それでは、本日の協議は、これまでにしたいと思います。

次回は、８月６日か８月７日を候補日として、地理から協議を行います。

これをもちまして、教育委員会第８回臨時会を閉じさせていただきます。

ありがとうございました。

午後７時06分閉会